# 国土造りプロジェクト構想９

## ～安全・快適で豊かな国土造りのために～

# 【瀬戸内クルーズネットワーク構想】

## ～クルーズ文化の浸透と瀬戸内の地域振興～





2022年3月

一般社団法人 日本プロジェクト産業協議会（JAPIC）

国土・未来プロジェクト研究会

# まえがき

狭隘かつ急峻な国土しか持たないこの国を、世界でも有数の高い経済活動を営む国へと創り上げた要因の一つは、国を挙げての国土基盤づくりの事業であった。

戦いで荒廃した国土の復興からはじまったこの 70 年余を見ても、空港、港湾や高速道路、新幹線のような大規模交通施設をはじめ、各種都市施設や防災施設、産業施設など大規模施設から、国民の日常生活を支える各種施設に至るまで、膨大な社会資本がこの間に蓄積された。

その間、国民は国づくり、街づくりについて多くの夢や意見を持ち、その実現にむけて積極的な行動を行ってきた。こうした中でいくつかの構想がつくられ、あるものは実現して現在の貴重なインフラとなって現世代に活用され、あるものは激しい議論の中で消えていった。行政の中では、多くの構想について検討がなされ、それらの実現に向けての努力は続けられ、政治やメディアはそれを支持し、時には反対に動いた。

しかし、今世紀に入る頃から、我が国社会でのこのような活動は目に見えて下火となっていった。経済の停滞と財政のひっ迫、そして国民の飽食意識や行政の守勢的姿勢などが、この国土整備への投資努力をうしろ向きにしてしまった。とくに大規模な国土基盤整備事業については、その構想を示すことに対してさえ、ネガティブな論調が示される向きが見られるほどになった。

近年の自然災害は激甚さを増している。また、経済の停滞はまたたく間に国民の所得水準を欧米のそれに大きく下廻るようにし、アジア周辺国の後じんをも拝するようになった。

長い歴史的蓄積を持つ欧米諸国はすでに充分かとさえ思われた国土のインフラをさらに改善し、より豊かな社会活動と国民生活のため、そして地域の文化振興のために、増強しつつある。

こうした現状から脱皮するために、我が国は必要とされる基盤施設を国民が再び構想し、実現に向けて努力することが必要と考える。

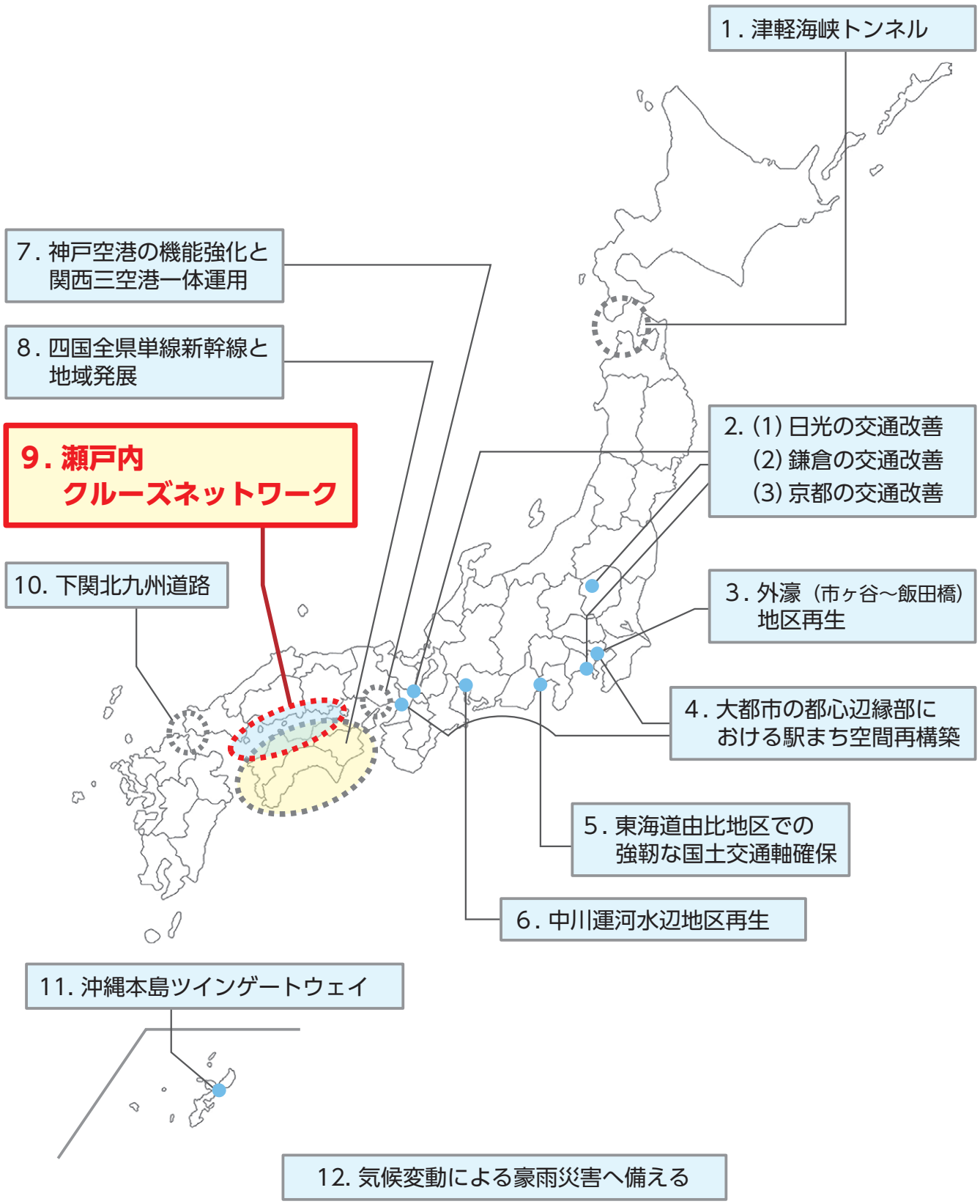
無論、社会が必ずしも必要としない施設に巨費を投ずる愚は避けねばならない。しかし、この国土をより安全かつ快適で豊かなものとし、そこでの活動をより効率的にし活性化するための投資は、続く世代とその先の未来のために広く国民全体で構想してゆくことが必要である。

新型コロナ感染症によって多大の損傷を被った世界の各国は、今後長期間にわたり、その回復とさらにその先の発展へ向けて、激烈な成長競争を進めるに違いない。そのとき、今後の発展へ向けての国土基盤への投資の多寡と適否はその国土の将来に対し支配的な影響を持つに違いない。

日本プロジェクト産業協議会（JAPIC）の構想提案書はそのような考えのもと、今後必要性が高く、かつ実現可能性も高い事業として、どのようなものが考えられるか、また、その実現にはどのような制度的（財源的)、技術的な方法があり得るかについて、JAPIC を舞台に糾合した主として建設関係の中核的な専門家の未来研究会が創り上げたものである。行政や経済界の関係者をはじめとする多くの方々がそれぞれの地域での今後の新しい事業を構想するにあたって、この構想提案書を参考とされることを期待するものである

日本プロジェクト産業協議会（JAPIC）
副会長　中村　英夫

# ～国土造りプロジェクト構想（重点プロジェクト）～



# 目 次
Contents

1. 瀬戸内地域の現状と課題 …… 1

2. 海外におけるクルーズ参考事例 …… 12

3. 瀬戸内の小型クルーズとは －3つの提言－ …… 14

4. 瀬戸内活性化の西日本地域への展開 …… 30

5. 今後の事業展開に向けて …… 32

【瀬戸内クルーズネットワーク構想】検討者名簿 …… 38

JAPIC 国土・未来プロジェクト研究会 委員名簿 …… 39

# 1. 瀬戸内地域の現状と課題

## 瀬戸内の歴史と沿革

### 古代から続く交通の大動脈

・畿内ー九州
・遣隋使・遣唐使・朝鮮通信使

### 交易の要所

・日宋貿易、北前船




北前船の主要な寄港地



提供：広島県

朝鮮通信使再現行列



提供：広島県

鞆の浦（広島県）

# 1. 瀬戸内地域の現状と課題

## 瀬戸内の歴史と沿革

・明治時代　来日した欧米人が瀬戸内海を絶賛
・昭和6年　雲仙、霧島と共に日本初の国立公園に指定





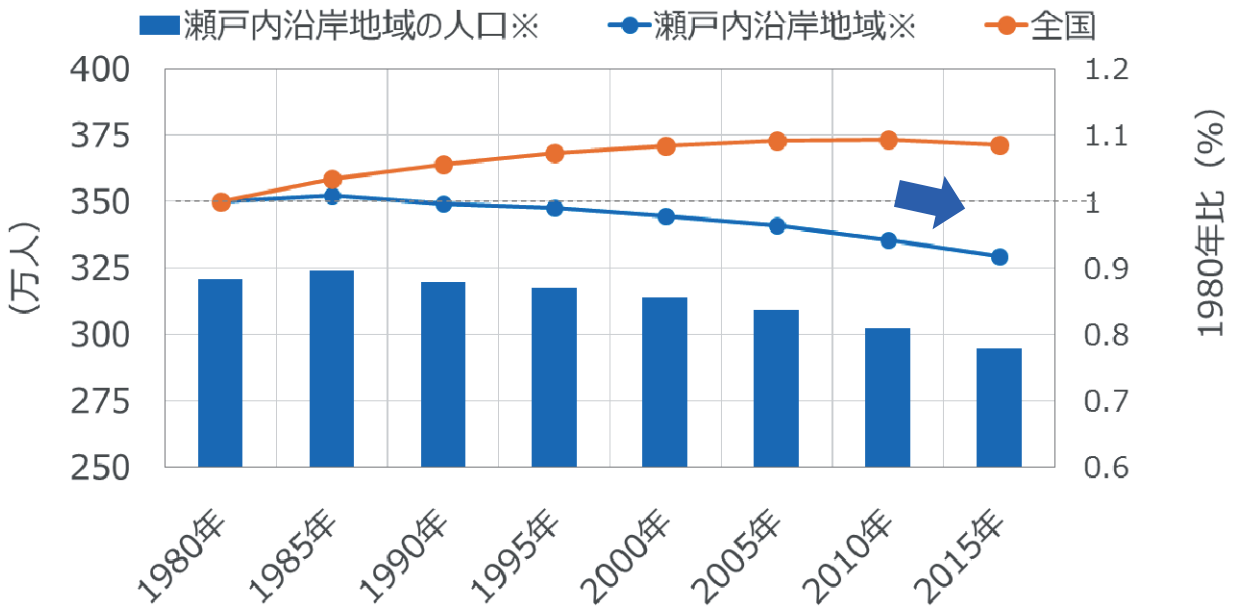


出典：吉田初三郎式鳥瞰図データベース

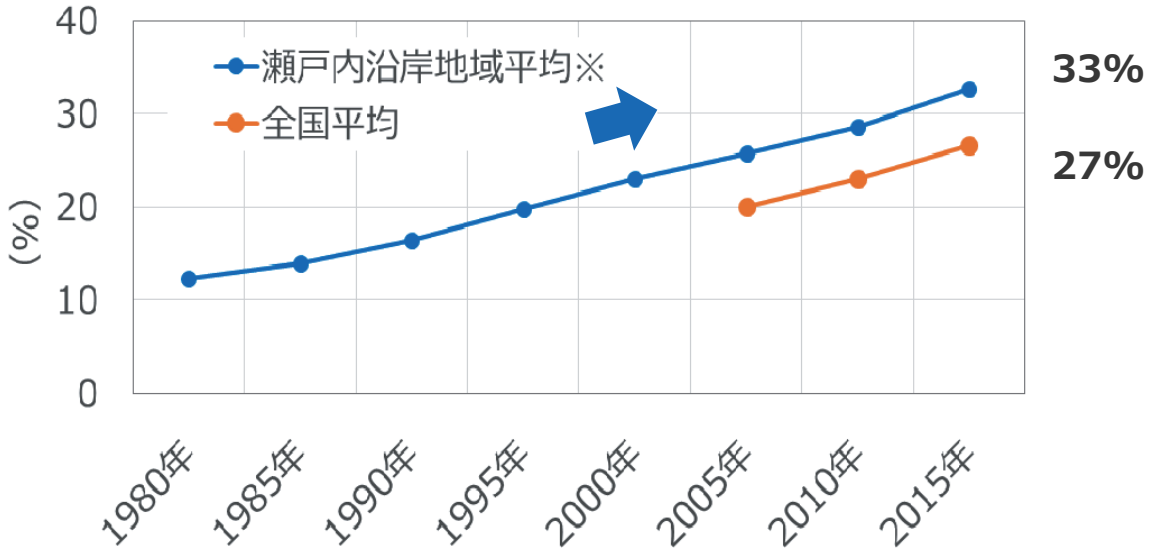
# 1. 瀬戸内地域の現状と課題

## 人口減少と高齢化

### 人口推移




### 65歳以上人口割合



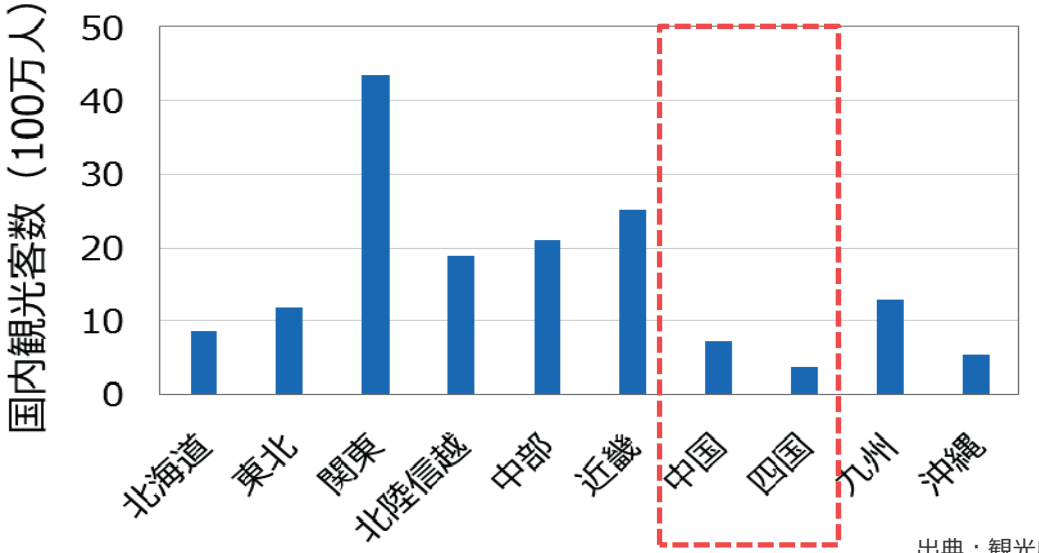

出典：政府統計の総合窓口(e-Stat) https://www.e-stat.go.jp/

※広島、岡山、香川、愛媛県の瀬戸内に面する市町村を対象。 但し県庁所在地に該当する4市は除く

# 1. 瀬戸内地域の現状と課題

## 偏りのある観光

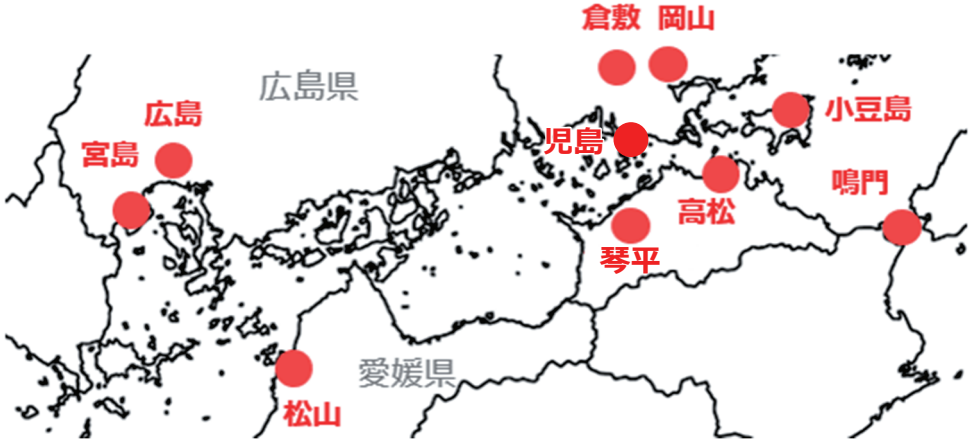
### 国内宿泊観光客数(2018年)




出典：観光庁　2018年旅行・観光消費動向調査

### 都市に集中する人気の観光地

瀬戸内旅行経験者の訪問地上位10か所（複数回答あり）




出典： https://www.mlit.go.jp/kokudokeikaku/souhatu/h17seika/3setouchi/03_06honpen4.pdf

# 1. 瀬戸内地域の現状と課題

## 瀬戸内の観光資源

### 世界から注目される瀬戸内地域

・英　日刊新聞『The Times』(2018年9月)
Luxury travelに**瀬戸内島めぐり**

・米　ニューヨーク・タイムズ誌電子版(2019年1月)
「2019年に行くべき52か所」に**「瀬戸内」７位**

・米　女性誌「 VOGUE 」電子版(2019年9月)
「2019年秋行くべきスポット5選」に　**瀬戸内国際芸術祭**



提供：岡山県観光連盟
高い評価を受けたせとうちの多島美

・観光振興の4大要素※：「気候」「自然」「文化」「食事」が充実
・欧米、豪州、ニュージーランド等の富裕客層に好まれる
・歴史、芸術など、欧米に好まれる観光要素多い

**世界トップの観光地と肩を並べられるポテンシャル**

※出典：　デービッド・アトキンソン 「新・観光立国論」

## 瀬戸内の魅力　ー　気候と自然



提供：PIXTA

1年を通して穏やかな気候と多島美
（700以上の島々、半数は有人島）



提供：photo AC

激しい潮流
（鳴門海峡など）

## 瀬戸内の魅力　－　食事



提供：PIXTA

豊富な魚介類
（穏やかな内海と激しい潮流に
育まれた海産物）



提供：PIXTA

多様なフルーツ
（段々畑の広がる島しょ部）

## 瀬戸内の魅力　－　文化（歴史･伝統行事）



提供：photo AC

世界遺産（厳島神社）



提供：広島県

祭り（管絃祭）

## 瀬戸内の魅力　ー　文化（スポーツ･芸術）




提供：瀬戸内Finder（https://setouchifinder.com/）

サイクリング（しまなみ海道）



提供：山口啓介「歩く方舟」
Photo: Takahashi Kimito

瀬戸内に点在する現代アート
「瀬戸内国際芸術祭」の開催

# 1. 瀬戸内地域の現状と課題

## 観光振興による経済効果

### ◆現状の地域経済

・4県(広島、岡山、香川、愛媛) 名目GDP合計 ⇒ **28.6兆円**　(2017年)

・現状の観光関連業が上記に占める割合 ⇒ **2%**※

※出典：観光庁　旅行・観光産業の経済効果 に関する調査研究（2019年度）

### ◆瀬戸内の観光ポテンシャル

⇒　**観光先進国（スペインなど）並み**

**GDP比10%の成長が期待**

**GDP2.5兆円の増加**
**35万人の雇用創出**



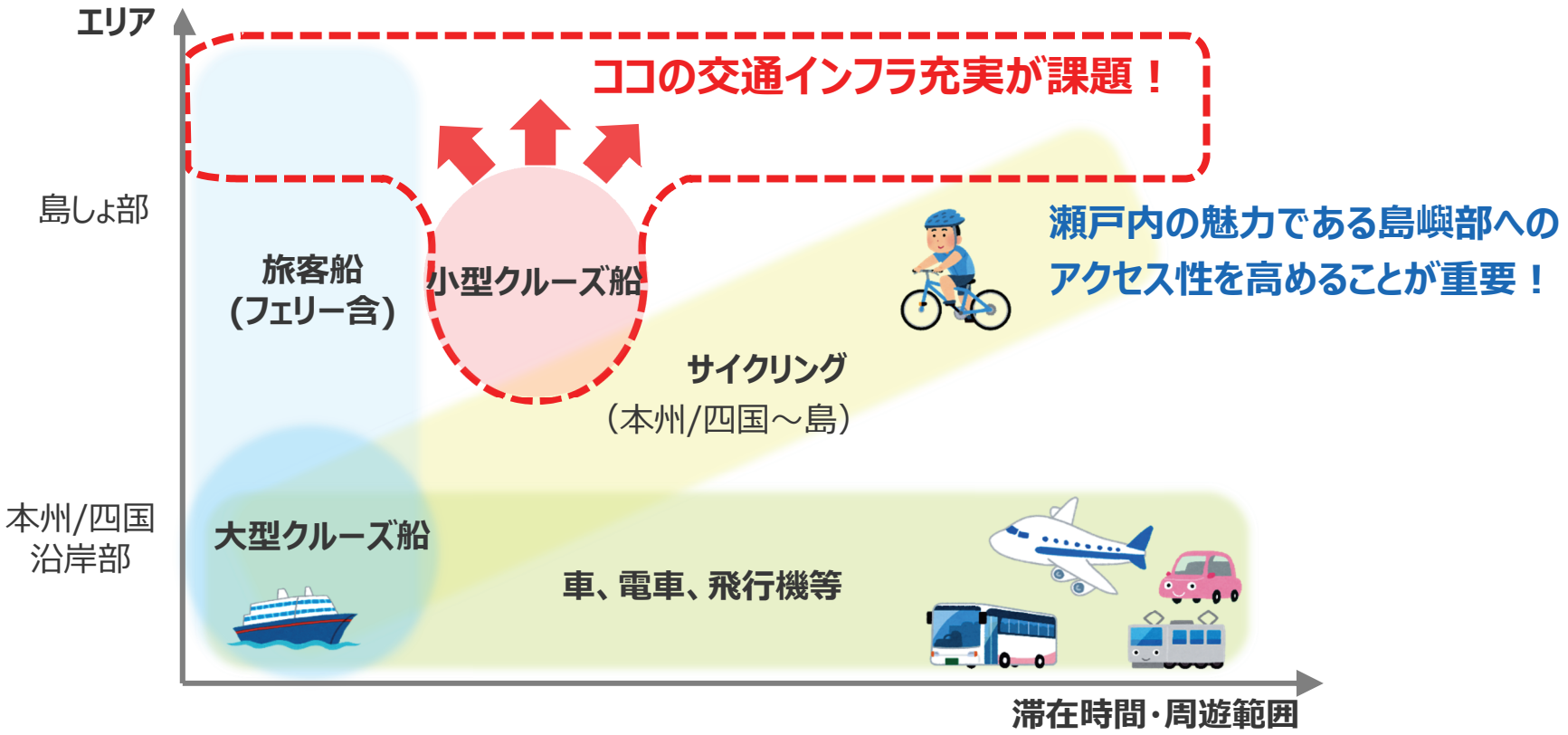
提供：（公社）香川県観光協会

# 1. 瀬戸内地域の現状と課題

## 島しょ部への移動インフラ

人口減少・経済縮小が進む島嶼部へ、交流人口を呼び込む**しかけ**として、
**小型船による島たび・クルーズ文化**を創り出す！

瀬戸内におけるエリアへの観光目的のアクセス性
ー交通手段と滞在時間ー



# 2. 海外における クルーズ参考事例

## 島めぐりクルーズ

### ◆エーゲ海クルーズ

ミコノス島　乗客数　78万人/年　寄港船舶数550隻/年　（2019年）

出典：ギリシャ港湾協会

### ◆ハロン湾クルーズ

乗客数　250万人/年

観光船（船内宿泊不可）:331隻、 クルーズ船（船内泊可）:202隻

出典：日本政策投資銀行　瀬戸内海上旅客交通調査



提供：iStock

エーゲ海（ ギリシャ、ミコノス島）



提供：iStock

ハロン湾（ベトナム）

# 2. 海外における参考事例　リバークルーズ

・7~10日程度を主流にした**プレミアムクラスのクルーズ**

・欧州ドナウ川・ライン川・セーヌ川などで人気　ー移り変わる風景や旧市街の散策

・中小運河などでは運河クルーズも　ー長閑な風景とゆったりとした時間を楽しむ

・**サイクリング＆クルーズ**　ー土手沿いのサイクリングロード、自転車貸出サービス



提供：Viking Cruises



提供：Viking Cruises

リバークルーズ

# 3. 瀬戸内の小型クルーズとは －3つの提言－

## クルーズを推進する上での障壁

① **既存の定期航路では多くの島をめぐることが難しい**
（住民中心の航路・県境をまたがない航路）

② **宿泊しながら多くの島をめぐるクルーズ商品自体が不足**
（島嶼部に着岸できる船上泊可能な小型船舶の不在）

③ **観光客の受入れ環境の不足と魅力を活かしきれないみなとまち**
（着岸施設、駐車場、2次交通、船客受け入れ施設、誘致体制など）




**瀬戸内を横断するような周遊ルートがない**



提供：yuko fukui

# 3. 瀬戸内の小型クルーズとは －3つの提言－

クルーズ推進

**提言１** 「島めぐり」の活性化を目指した**「島たびプラットフォーム」**

**提言２** 地域の力でクルーズ船建造・運用**「せとうちプラチナクルーズ」**

**提言３** クルーズ客を受け入れる**「にぎわいみなとまちづくり」**

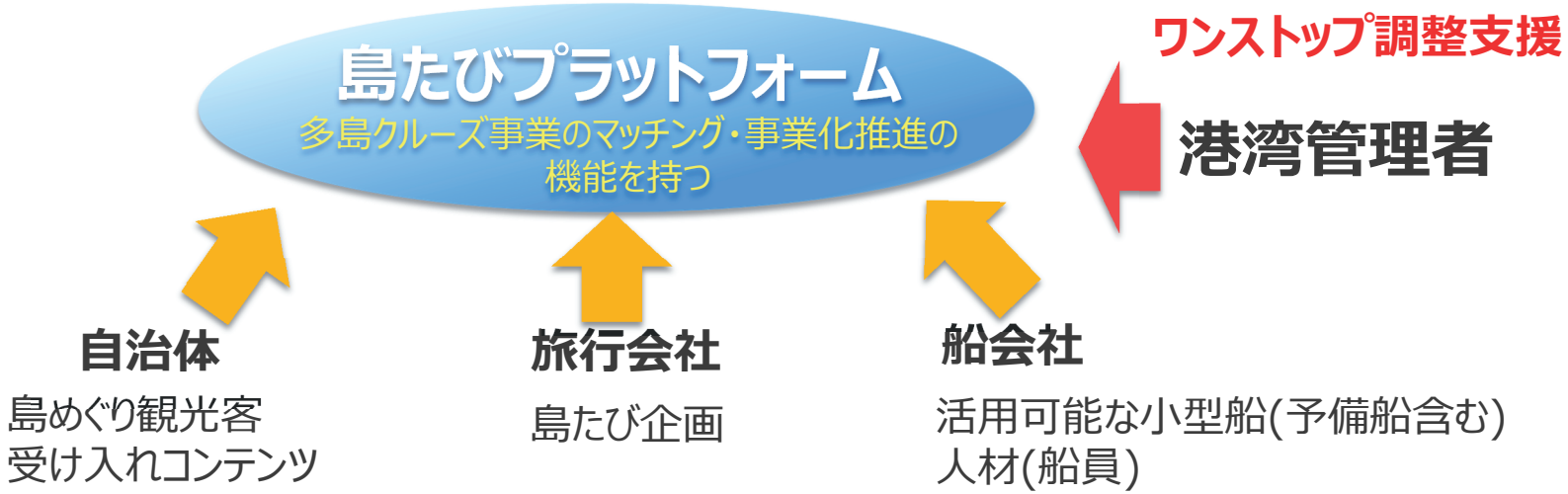
| 規模<br>クラス | 中型クルーズ船 | 小型クルーズ船<br>【宿泊機能あり】 | 小型旅客船<br>【宿泊機能なし】 |
|---|---|---|---|
| ラグジュアリ | 飛鳥Ⅱ、にっぽん丸<br>Star Legend | ガンツウ[常石造船]<br>海の七つ星構想[両備] | ― |
| プレミアム | セレブリティ・ミレニアム | 提言2地域の力で<br>せとうちプラチナクルーズ | おりんぴあどりーむせと[両備]<br>Sea Paceo[瀬戸内海汽船] |
| カジュアル | フェリーさんふらわあ<br>「昼の瀬戸内感動<br>クルーズ」 | | 提言1<br>島たびプラットフォーム |
| 対象となる<br>寄港地 | 中核都市港<br>（広島・松山・高松・呉・<br>坂出・小豆島） | 島嶼部 | 島嶼部 |

提言3<br>クルーズ客を受け入れる**にぎわいみなとまちづくり**

# 提言１　「島めぐり」の活性化！「島たびプラットフォーム」

## 短期間で多くの島めぐりが可能なカジュアルクルーズを提供

- 船会社・自治体・旅行会社の**マッチングを推進、事業化推進機能を持つプラットフォームを構築**
- **広域的で魅力的な、多島めぐり**が可能な航路開発・商品開発
  マーケティング機能と**プロジェクト方式による仕組みを組込む**
- プラットフォームには、県などの港湾管理者、港湾所在自治体が参加し
  **強力な調整支援によるスピーディな事業化を実現**



# 提言１　想定する島たび企画イメージと効果　①

・若年層、インバウンドをターゲット層にした
　　**“利用しやすい・カジュアルな島たび”**を実現
・ワンストップ支援で、複数県の多島めぐりなど**魅力的な島たび企画**を実現

## 企画イメージ①：日帰り多島めぐりのクルーズ（食事は寄港地・船上）

【効果その１】
**チャーター船1社でらくらく周遊！**
（現状）
・2県をまたぐ航路 ⇒乗り換え5回
・海路→陸路→海路

【効果その２】
**新規航路で全て海路＆一日で！**
（現状）
・定期航路乗船利用日が限定
・同ルートの周遊に3日必要



出典：NTTインフラネット株式会社

**世界に誇る現代アートや「石の島」での奇石鑑賞、瀬戸内海の海鮮を満喫！**
**3島をめぐり芸術に触れる日帰りクルーズ！**

# 提言１　想定する島たび企画イメージと効果　②

## 企画イメージ②：3県をまたぐ2日間のクルーズ（宿泊・食事は寄港地）

【効果その１】
**チャーター船1社でらくらく周遊！**
（現状）
・3県をまたぐ航路 ⇒乗り換え6回！

【効果その２】
**新規航路で1泊２日に短縮！**
（現状）
・定期航路利用では2泊３日
・チャーター船だからこそ待機時間も解消！




出典：NTTインフラネット株式会社

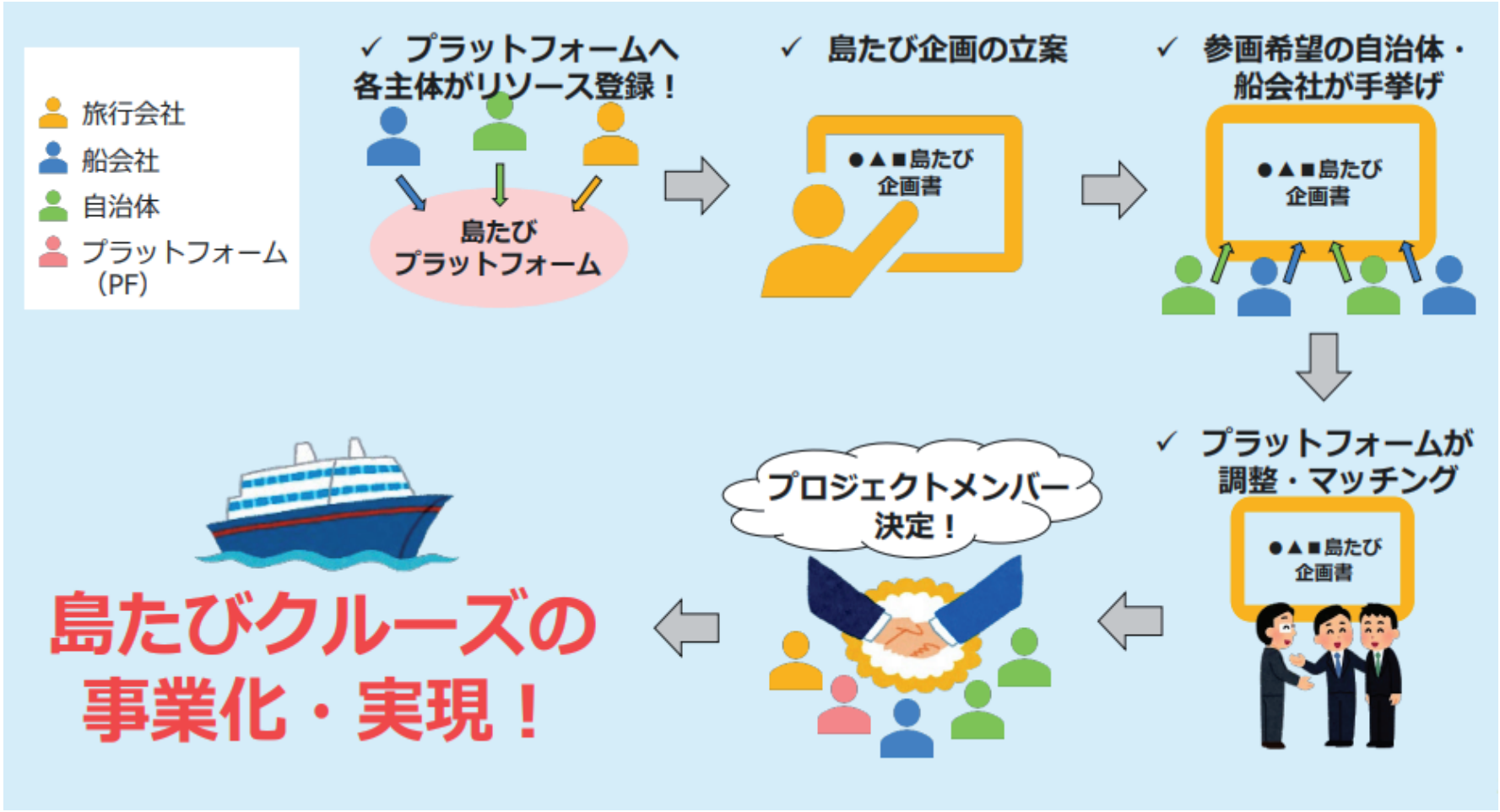
**世界遺産・軍港と海軍カレー・みかんの香りと星空を楽しみ、**
**瀬戸内のハワイでイルカウォッチング！４島をめぐる贅沢な2日間！**

＜現状＞陸路との併用/複数の船会社/乗り継ぎ/複数日程

**チャータークルーズ/寄港地連携により魅力的な島たびクルーズが実現可能！**

# 提言１　「島たびプラットフォーム」での事業化の仕組み

多様な企画を旅行者ニーズから組み立て、**手上げ方式でマッチング**
→これまでにない**島たびクルーズ商品が、地域の力で生まれる！**



# 提言2　せとうちプラチナクルーズ

・**プチ贅沢を楽しむ！**

欧米インバウンド、国内シニア層をターゲットにした**「プレミアムクラス」のクルーズ**

・大型クルーズ船が立ち寄れない**島嶼部を中心としたクルーズ**

・「せとうちプラチナクルーズ」を実現する**小型クルーズ船を地域資本で建造・運営**

・瀬戸内の食材、文化などを、自治体と連携し現地調達することにより

**地元雇用も促進し、地域経済に寄与**する仕組みを構築

・災害時には宿泊・救援機能も保有し、**島しょ部のレジリエンス向上**に寄与

## クルーズプランイメージ

・3泊4日宿泊・食事つき、1泊５万程度のクルーズプラン




出典：NTTインフラネット株式会社

# 提言2　新たな観光スタイル「せとうちプラチナクルーズ」

・これまでになかった**広域ルートで複数の島を堪能**

・宿泊機能、小型モビリティなどをクルーズ船が保有し、島のインフラ・キャパシティに**過度の負荷をかけないクルーズプラン**

・地域の食材をふんだんに活用した食事、夜は各港に停泊、地域の伝統芸能を楽しむなど、地域と連携したクルーズエンターテイメントを提供、地元住民・文化と親しむ **“ローカル・フレンドリー・クルーズ”**














提供：（公社）香川県観光協会

# 提言2　せとうちプラチナクルーズ



# 提言2　「せとうちプラチナクルーズ」船舶概要



## せとうちクルーズの船舶諸元イメージ

- 船の規模：1000トン程度
- 全長：80m程度
- 乗客数：100～150名
- 客室数：50～80室

**比較的高級なビジネスホテル並みの宿泊設備**

- 設備：サンデッキ、ラウンジ、レストラン
- 積載可能な上陸用の2次交通車両：
  中型バス、電気自動車、自転車
- クルーズプラン：3泊4日3か所寄港



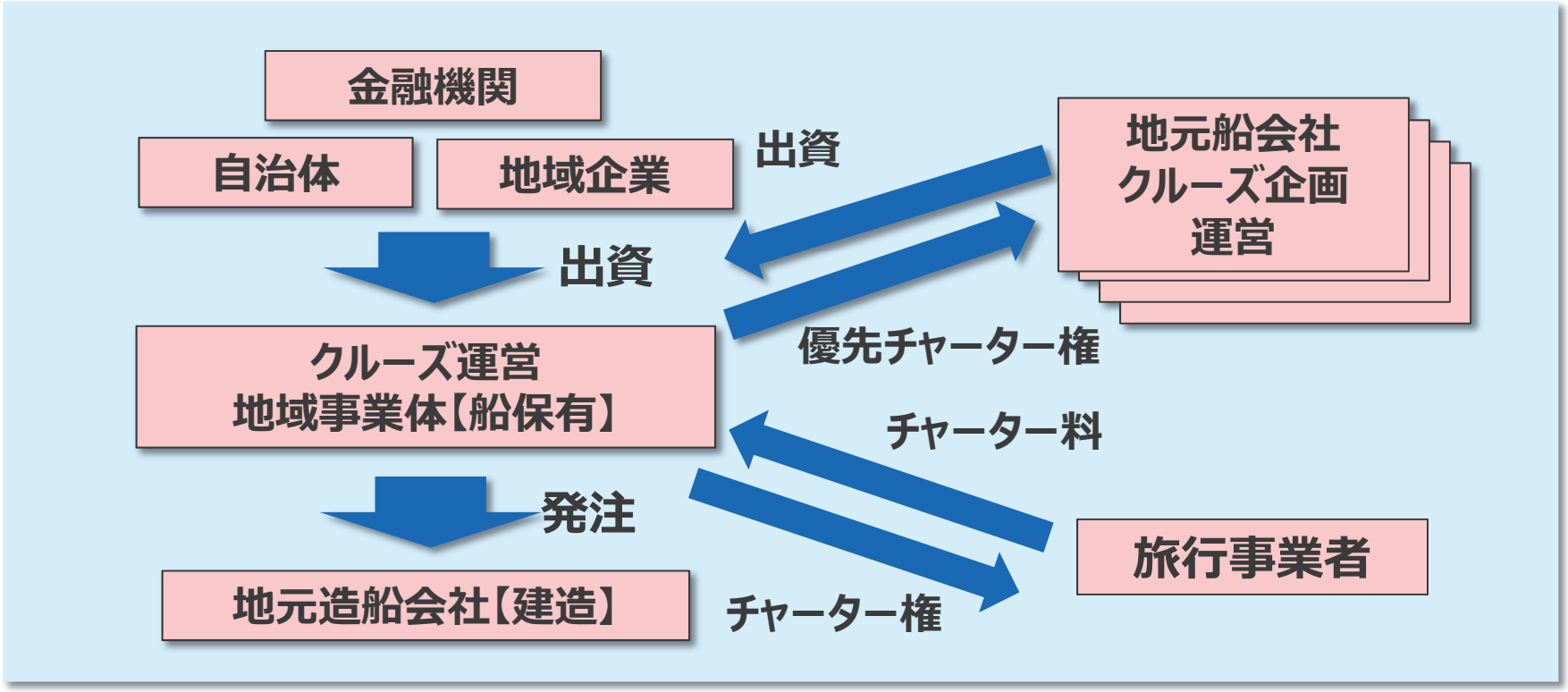
**内海回遊型クルーズで**
**せとうちを楽しみ倒す！**

# 提言2　地域資本でクルーズ船の建造・運営の仕組み（案）

例えば、

・地域資本（金融機関、地域企業、自治体、船会社）が出資し、クルーズ運営地域事業体を組織化 **【官民連携企業体】**

・事業体が船を建造・保有し、出資した地元船会社はチャーター権を優先取得、クルーズ企画運営を遂行 **【船とクルーズ事業の上下分離方式】**



# 提言2　せとうちプラチナクルーズ　経済効果

## 経済効果試算

**寄港地**：3~4万円/人・日　　**母港**：42.2万円/人・日 ※1

### 海外＆大型クルーズ 寄港効果

**経済効果：約46億円/年（全寄港分実績試算）**

試算の考え方
①寄港回数；153回/年　※2
②1隻あたり乗客数：1000人
③波及効果：3万円/人・一寄港

①×②×③＝約46億円

### 地域資本小型クルーズ建造＆運行効果

**経済効果：約33億/年・隻 ＋建造費15億円/隻**

試算の考え方
①クルーズ運行：毎週（50週/年）3泊4日
3か所寄港⇒延べ150回寄港
中国・四国を母港⇒延べ100回発着港
（運行50回）
②1隻あたり乗客数：100人
③波及効果（寄港地）：2万円/人・一寄港
④波及効果（母港）：30万円/人・一母港・回
（①×②×③）＋（①×②×④）＝約33億円

**船建造×母港のALLせとうちで地域経済波及効果が期待できる！**

（※１出典：国土交通省　H27年2月「クルーズ振興を通じた地方創生～クルーズ100万人時代に向けた取り組み～」
※２出典：「瀬戸内クルーズの推進について」瀬戸内クルーズ推進会議第1回資料　）

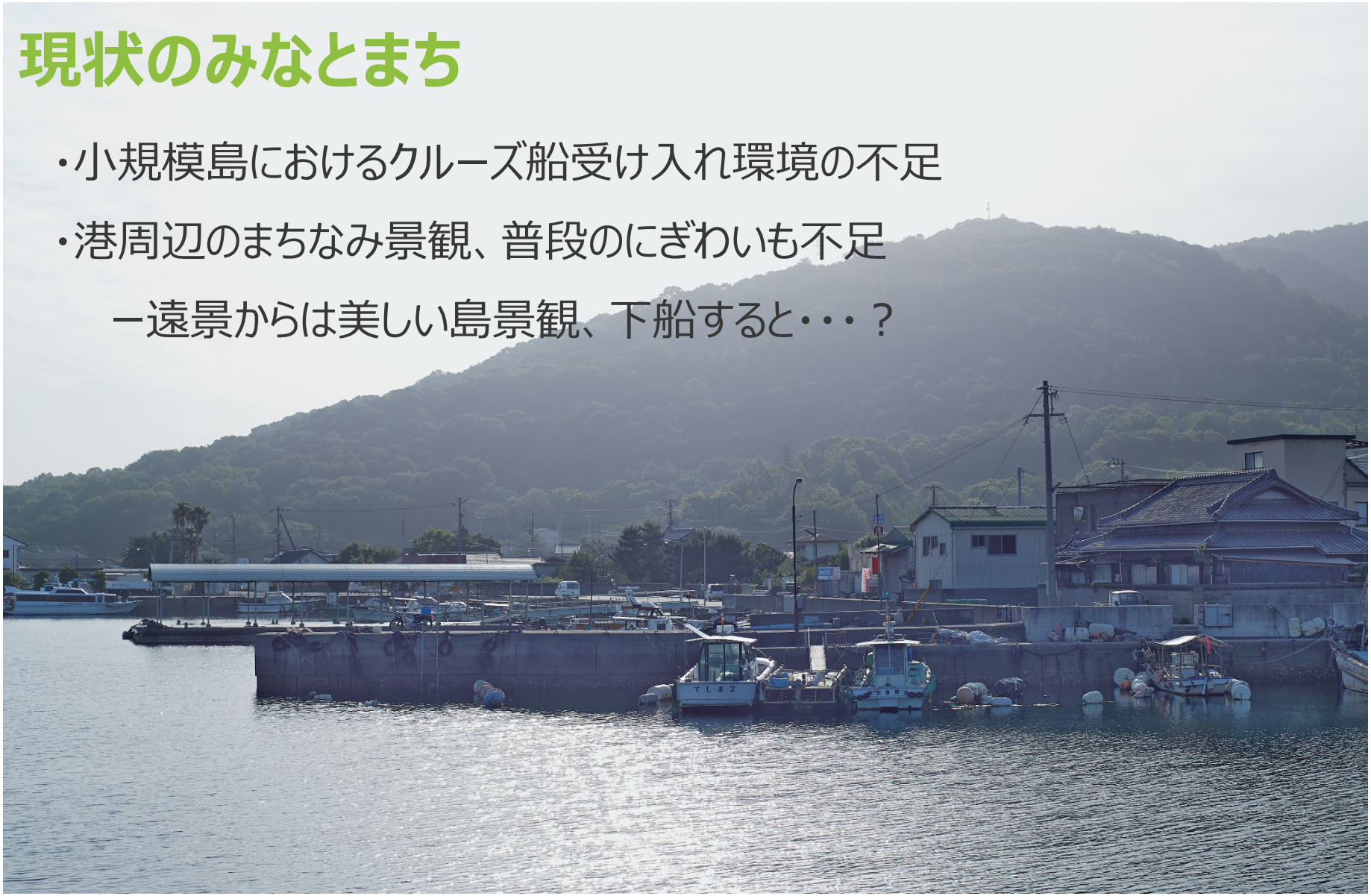
# 提言3　「現状のみなとまち」から「にぎわいみなとまち」へ

## 現状のみなとまち

・小規模島におけるクルーズ船受け入れ環境の不足

・港周辺のまちなみ景観、普段のにぎわいも不足

　ー遠景からは美しい島景観、下船すると・・・？



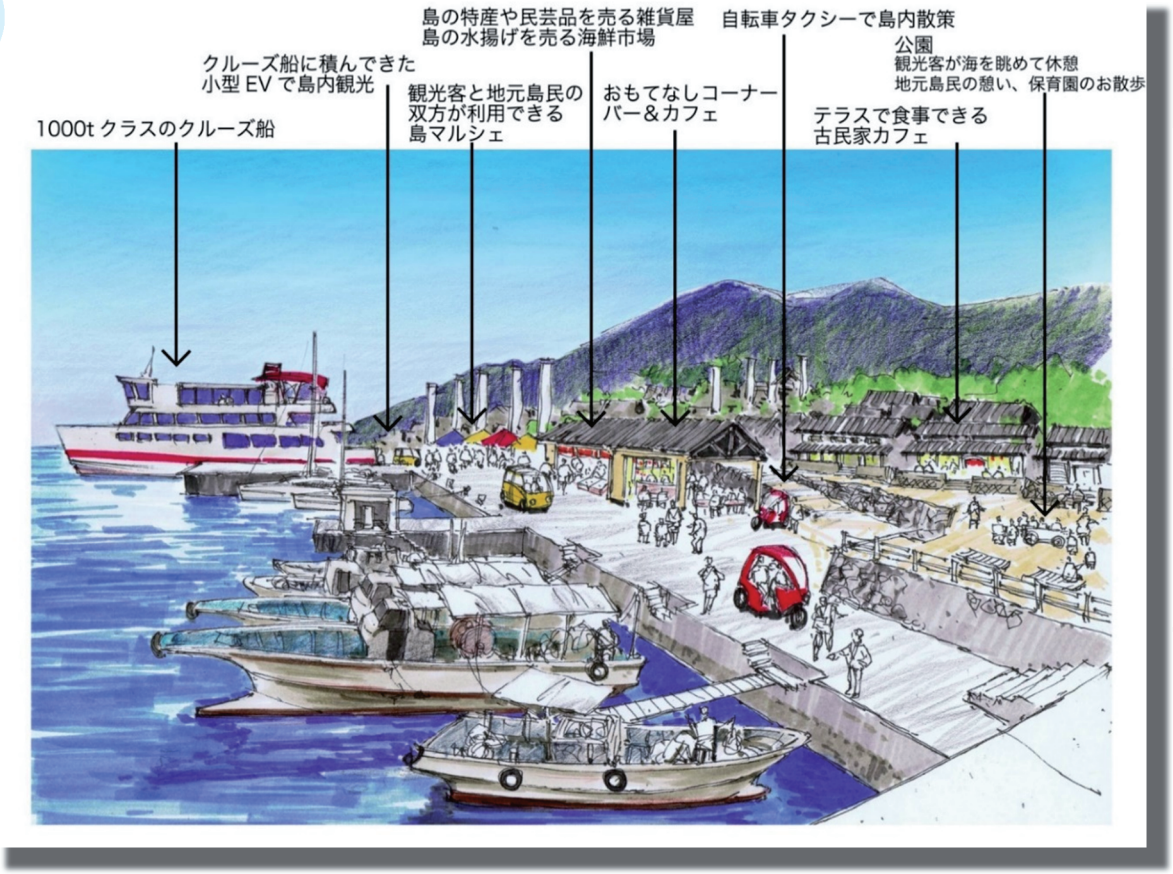
提供：yuko fukui

# 提言3　目指す「にぎわいみなとまち」とは

## 観光客と住民が共生するみなとまち

**クルーズ客が期待するみなとまち機能**

- 小型クルーズ寄港を想定したリーズナブルな着岸施設
- 寄港地の情報をお知らせする情報提供施設
- EVカーシェア、レンタサイクルなど2次交通拠点

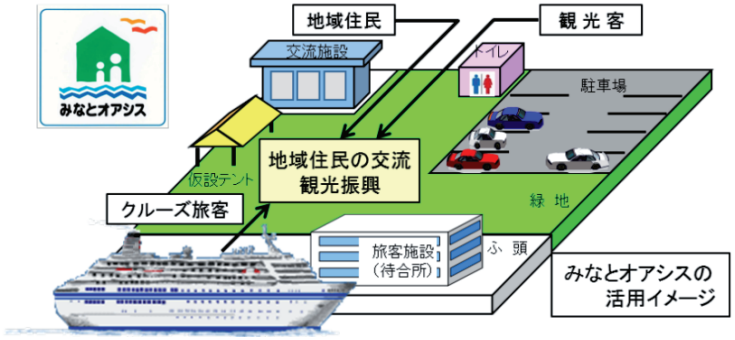



**住民が期待するみなとまち機能**

- 島民・観光客双方が利用する飲食・商業拠点
- 島民の日常利用が可能な公的施設（公民館/役場/図書館等）
- 災害時に活用可能なマルチユーススペース（日常：公園、寄港時：受入広場）

# 提言3　「にぎわいみなとまちづくり」を進めるしかけ　①

## ◆「みなとオアシス」の活用




みなとまちづくりにかかわる支援制度の一例

## ◆寄港に伴う収入をみなとまちづくりに活用

（例）

船会社 → にぎわいみなとまちづくり

**島民の生活に必要な施設**
【商業/飲食/医療等生活施設
図書館・公園・公民館等公的施設】

**住民もクルーズ客も使える**
**マルチユースな複合拠点整備**

**観光客受け入れに必要な施設**
【待合所/情報提供・ｲﾍﾞﾝﾄｽﾍﾟｰｽ/
土産物等商業/食事ｽﾍﾟｰｽ】

## ◆おもてなし文化の醸成

催しによる賑わい空間の創出など



# 提言3　「にぎわいみなとまちづくり」を進めるしかけ　②

## 「(仮称)広域連携型せとうち多島美条例」と推進協議会の立ち上げ

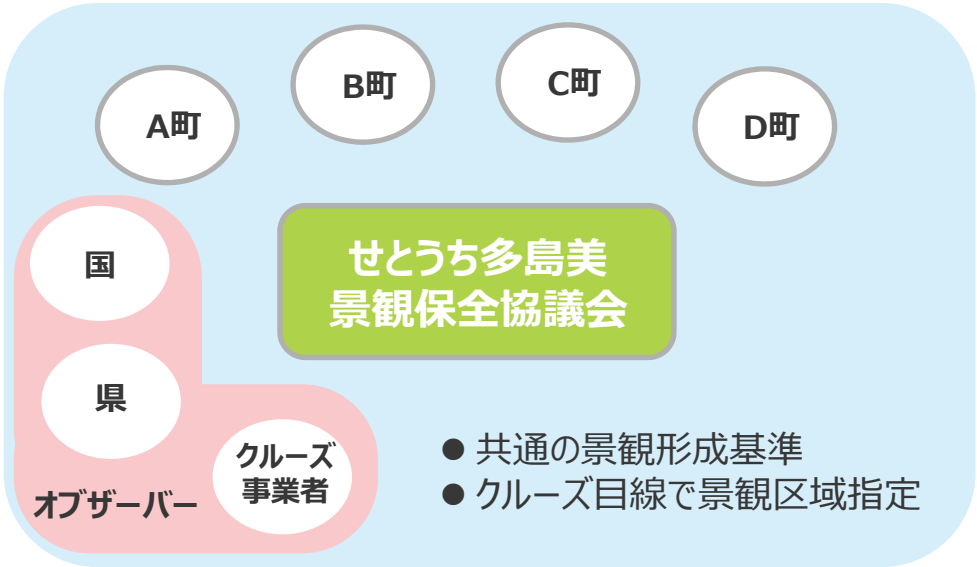
**・寄港地となる自治体が連携、せとうち多島美にふさわしい景観形成基準を策定**

例１）建築物又は工作物の形態又は色彩その他意匠の制限
→海から見えるまちなみ・住宅地の建築物や工作物は、統一感を！

例２）景観形成の方針
→“せとうち”ならではの景観＆昔からある“みなとまち”のまちなみ形成の方針を！

**・海から見た景観の優れたエリアや下船後のまち歩きエリアをターゲットに周辺を区域指定**

**・区域指定自治体には、新たな“にぎわいみなとまちづくり”に関する国からの支援策を優先実施**






京都府伊根町

# 4. 瀬戸内活性化の西日本地域への展開

## 瀬戸内循環交通ネットワーク形成

・クルーズネットワークの形成と循環交通ネットワークの相乗効果により瀬戸内・西日本が活性化

・3モード（高速道路・高速鉄道・クルーズ）が地域移動の多様化・円滑化を実現

・関西、九州圏を巻き込み観光以外の経済効果も大きく西日本の地域活性化に貢献




地図データ ©2017 Google, SK telecom, ZENRIN

# 4. 瀬戸内活性化の西日本地域への展開

## 循環交通ネットワークを構成する主要プロジェクト構想

| プロジェクト構想 | 概　要 |
|---|---|
| ①四国の新幹線 | 基本計画『四国横断新幹線』に基づく、岡山市～高知市、および『四国新幹線」に基づく徳島市～松山市により形成される十字ルートの整備 |
| ②クルーズネットワーク基盤整備 | 瀬戸内海内のクルーズネットワークの整備（護岸・旅客施設・駐車場・二次交通・多言語CIQ等） |
| ③下関北九州道 | 関門トンネルと関門橋の老朽化対策、及び東アジアのゲートウェイとしての関門地域の地域振興を図る道路整備（海峡幅0.7~2km） |
| ④安芸灘架橋 | 架橋による安芸灘とびしま海道、及び瀬戸内しまなみ海道の広域周遊ルートの整備 |
| ⑤紀淡海峡連絡路 | 11kmの海峡を横断する中央支間長2,000mを超える吊り橋による海峡横断橋梁の整備 |
| ⑥関西大環状線 | 紀淡海峡連絡道路、神戸淡路鳴門自動車道、新名神と京奈和自動車道などでつながる一周300kmの大環状道路の整備 |
| ⑦東九州新幹線 | 福岡から大分市、宮崎市を経て終点の鹿児島市へ至る新幹線路線の整備（延長390km） |
| ⑧新大阪～関西空港～四国連絡高速鉄道 | 新幹線を新大阪から大阪駅に乗り入れ、関空へ延伸し、さらに紀淡海峡大橋、大鳴門峡を経由して四国へ延伸する路線整備 |
| ⑨豊予海峡連絡路 | 大分県、愛媛県を鉄道、及び道路で結ぶ連絡路の整備（橋梁構想と海底トンネル構想有り、海峡幅13.9km、最大水深約195m） |

# 5. 今後の事業展開に向けて　３つの提案の実現ステップ

| | ステップ1 | ステップ2 | ステップ3 |
|---|---|---|---|
| 提言１<br>島たび<br>プラット<br>フォーム | **WGの設立**<br>提案に賛同する旅行会社、船会社、自治体、国が参加<br>**運営組織のあり方、事業モデル**<br>の検討、設立準備<br>**運営母体の具現化**<br>（あらたな組織、官民連携事業体、民間委託等） | **島たび<br>プラット<br>フォームの<br>設立・運営** | マッチングによる<br>新たな多島クルーズ**事業の推進** |
| 提言2<br>せとうち<br>プラチナ<br>クルーズ | | | **事業性検討**、<br>運営事業体の<br>組成支援<br>運営地域事業体の<br>立ち上げ、**事業化** |
| 提言３<br>にぎわい<br>みなとま<br>ちづくり | | | **推進方策検討**<br>賛同**自治体による<br>推進協議会**の立ち上げ、<br>条例化<br>**国による先行モデル事業**<br>の実施 |

# 5. 今後の事業展開に向けて　民間事業者参入に向けて

## ◆ 規制・手続きなどに関するヒアリング調査

・新規航路申請手続きなど
・定期航路に関する補助金制度と新規航路ビジネスに対する制約

## ◆ 官民連携スキームの提案

・新規クルーズ船の建造・保有は民間事業者だけでは推進困難
・鉄道事業の様な上下分離の考えを導入
・東南海地震に備え有事には防災支援船舶として活用

## ◆ 財源確保に向けて

・国際観光旅客税の活用　（船舶建造、にぎわいみなとまちづくり）
（例えば、6000万人×1000円×10％＝**60億/年**をクルーズ観光補助事業に）
・上下分離方式の活用（例えば船舶共有建造制度など）
・地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）の活用など

## ◆ クルーズ振興による海事産業の発展

・海運業、造船業の振興と若手船員の育成

# 5. 今後の事業展開に向けて　サイクリング需要の取り込み

## 提言１　島たびプラットフォーム × サイクリング

・サイクルツーリズムの国内マーケット　約1256億円※
・姉妹自転車道協定の締結（「しまなみ海道」と台湾）
・国際サイクリング大会の開催　　約9億円の経済効果

→ **クルーズと組み合わせることで相乗効果を狙う**

## 提言２　プラチナクルーズ　×　サイクリング

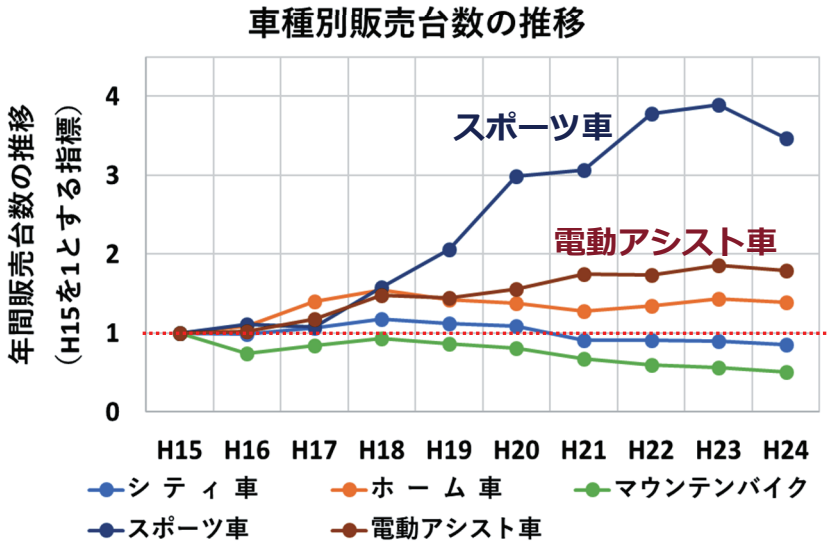
・サイクリングで課題となる自転車や手荷物の移動・保管はクルーズ船で担うことが可能
・欧州のリバークルーズ：自転車の貸出、ガイド付きツアー、ガイド機能付きGPSデバイスおよびサポートバンの提供

→ **プラチナクルーズでも同様のサービスを提供可能**

## 提言３　にぎわいみなとまち×　サイクリング

・みなとにサイクルオアシス（休憩・案内施設等）の役割を兼ねることで、サイクルツーリズムの拠点に

→ **島嶼部への人流増加で地域活性化に**




出典：（財）自転車産業振興協会　自転車国内販売動向調査



サイクリングを楽しむ乗客（イメージ）

※出典： https://www.tour-de-nippon.jp/series/wp-content/uploads/2019/02/cyclist_survey.pdf

# 5. 今後の事業展開に向けて　クルーズ文化を盛り上げる要素

## ◆ 島の資源を活かしたスポーツ　－トライアスロン

・サイクリング文化の素地がある

・島とトライアスロンの相性良い

　人気大会ランキング上位は島（佐渡、宮古、五島など）

・国立公園・世界遺産での開催　＜インパクト大＞

・最寄りの港からクルーズ船で出港、船上泊、船上セレモニー

　大会後宿泊、翌朝港に到着



提供：広島県

**→トライアスロン×クルーズのパッケージ商品などの可能性**

## ◆ 自分のペースでクルーズを楽しむ　－ヨット

・穏やかな海象と点在する島々など恵まれたクルーズ環境

・多くのヨットが島巡りを楽しみ、チャーターヨットも存在

・複数のヨットが一緒に帆走しながら寄港地をめぐるヨットラリーが

　2013年より「瀬戸内国際ヨットラリー」として毎年開催





瀬戸内国際ヨットラリー
SETOUCHI

**→景観や島巡りを楽しむ文化の浸透、クルーズ需要の拡大へ**

提供：瀬戸内国際ヨットラリー

# 5. 今後の事業展開に向けて　広報活動の強化

- 大阪・関西万博や大阪IR整備を広報機会と捉え、クルーズとの連動を提案
  （大阪起点の瀬戸内クルーズ、しまなみ海道をはじめとするサイクリング拠点への誘導）
- 瀬戸内海クルーズ推進会議、地域経済団体等とシンポジウムを共催
- 海外に向けた発信（観光庁、瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会等と連携）
- 旅行会社と協働で観光促進イベントなどを共催
  （たとえばサイクリング＆クルーズの商品開発強化）
- 島しょクルーズの旅行プランなどを配信(YouTubeなどを活用)

瀬戸内・海の路ネットワーク
推進協議会

# 【瀬戸内クルーズネットワーク構想】検討者名簿

※敬称略

チームリーダー

越智　　修　（五洋建設（株）　専務執行役員　土木部門担当）

メンバー　　（50音順）

石﨑　晶子　（パシフィックコンサルタンツ(株)　経営戦略室　チーフプロジェクトマネージャー）

塩﨑　正孝　（（株）IHI　顧問）

中嶋 さやか　（五洋建設（株）ICT 推進室　BIM/CIM グループ　担当課長）

水谷　　誠　（（一社）日本建設業連合会　常務執行役）

村田　浩隆　（五洋建設（株）横浜営業支店　支店長）

吉川　正嗣　（（株）建設技術研究所　顧問）

# ～ JAPIC 国土・未来プロジェクト研究会 委員名簿（敬称略）～

| | 氏　名 | 団体名 | 役　職 |
|---|---|---|---|
| 最高顧問 | 中村　英夫 | (一社)日本プロジェクト産業協議会 | 副会長／東京都市大学　名誉総長 |
| 委員長 | 藤本　貴也 | パシフィックコンサルタンツ(株) | 特別顧問 |
| 委員 | 阿部　義典 | 国際航業(株) | インフラマネジメント事業部　道路計画担当部長 |
| | 雨宮　克也 | 三井不動産(株) | 開発企画部　環境創造グループグループ長 |
| | 荒井　　清 | 東亜建設工業(株) | 土木事業本部　プロジェクト部長 |
| | 荒木　千博 | (株)建設技術研究所 | 東京本社　河川部長 |
| | 有田　　淳 | 前田建設工業(株) | 土木事業本部　営業第1部副部長 |
| | 安斉　孝仁 | (一社)日本プロジェクト産業協議会 | 顧問 |
| | 安藤　聡穂 | (株)IHI | 社会基盤・海洋事業領域グローバルビジネス推進部　部長 |
| | 飯尾　昌和 | (株)日本港湾コンサルタント | 計画本部　専任部長 |
| | 石坂　久志 | (株)復建エンジニヤリング | 事業本部　副本部長 |
| | 石﨑　晶子 | パシフィックコンサルタンツ(株) | 経営戦略室　チーフプロジェクトマネージャー |
| | 石田　有三 | 大成建設(株) | 土木営業本部　開発営業部　営業担当部長 |
| | 石村　佳之 | (株)オリエンタルコンサルタンツ | 関東支社　道路部長 |
| | 一色　眞人 | 西松建設(株) | 代表取締役　執行役員　副社長 |
| | 乾　　靖 | (株)竹中工務店 | まちづくり戦略室　専門役 |
| | 今井　敬一 | (株)建設技術研究所 | 国土文化研究所　次長 |
| | 今井　　稔 | (一社)建設コンサルタンツ協会 | インフラストラクチャー研究所　研究部長 |
| | 岩野　政浩 | 大成建設(株) | 理事　土木本部　土木企画部長 |
| | 上西　泰輔 | (株)大林組 | 東京本店　土木事業部　営業部長 |
| | 太田　昌彦 | 日本製鉄(株) | プロジェクト開発部長 |
| | 大野　昌幸 | 清水建設(株) | 営業総本部　土木営業本部　営業部　部長 |
| | 大村　哲夫 | (株)日本港湾コンサルタント | 取締役会長 |
| | 岡本　俊彦 | 大成建設(株) | 土木本部　土木企画部　戦略計画室　部長代理 |
| | 岡山　　誠 | 鹿島建設(株) | 土木管理本部　土木工務部　ダムグループ担当部長 |
| | 越智　　修 | 五洋建設(株) | 専務執行役員　土木部門担当 |
| | 越智　繁雄 | 大成建設(株) | 執行役員 |
| | 小野　哲男 | (株)熊谷組 | 執行役員　土木事業本部　副本部長 |
| | 加藤　孝明 | 東京大学 | 生産研究所　教授／社会科学研究所　特任教授 |
| | 門脇　直哉 | 日鉄物産(株) | プロジェクト開発部長 |
| | 神尾　哲也 | 戸田建設(株) | 常務執行役員　土木営業統轄部長 |
| | 河合　康之 | (株)三菱地所設計 | エグゼクティブアドバイザー |
| | 川口　英俊 | 東京都市大学 | 都市生活学部　教授 |
| | 川嶋　　憲 | (株)日本港湾コンサルタント | 執行役員 |
| | 菅藤　　学 | (株)ドーコン | 東日本事業本部　東京支店　事業部長 |
| | 菊地　史春 | 日鉄興和不動産(株) | 企業不動産開発本部　九州支店長 |
| | 清原　　亮 | (株)安藤・間 | 営業本部　営業第一部　営業グループ課長 |
| | 栗栖　　寛 | (株)淺沼組 | 土木事業本部　技術設計第２グループ　グループリーダー |
| | 黒川 純一良 | (公社)日本河川協会 | 専務理事 |
| | 桑原　茂雄 | (株)淺沼組 | 執行役員　戦略事業推進部　部長 |
| | 小坂　彰洋 | 東京地下鉄(株) | 常務取締役 |
| | 五味　宗雄 | (株)安藤・間 | 取締役副社長 |
| | 今野　水己 | (株)三菱総合研究所 | 西日本営業本部　特命リーダー |
| | 斉藤　　親 | (一社)日本プロジェクト産業協議会 | 顧問 |
| | 酒井　哲夫 | (株)ドーコン | 東日本事業本部　次長 |
| | 佐々木 雅幸 | 東急建設(株) | 常務執行役員　土木事業本部　副本部長 |
| | 佐野　　忍 | 鹿島建設(株) | 土木管理本部　プロジェクト推進部　プロジェクト推進部長 |
| | 塩﨑　正孝 | (株)IHI | 顧問 |
| | 清水　英範 | (公社)日本測量協会 | 会長 |
| | 清水　　雄 | (株)オオバ | 常務取締役　執行役員　営業本部長 |
| | 下長　右二 | パシフィックコンサルタンツ(株) | 執行役員　社会イノベーション事業本部長 |
| | 白木原 隆雄 | (一社)計画・交通研究会 | 理事・事務局長 |

| | 氏　名 | 団体名 | 役　職 |
|---|---|---|---|
| | 白水　靖郎 | 中央復建コンサルタンツ(株) | 常務取締役　経営企画本部長 |
| | 杉原　克郎 | (株)エスシー・マシーナリ | 代表取締役社長 |
| | 関　　克己 | (公財)河川財団 | 理事長 |
| | 髙木　博康 | (株)オリエンタルコンサルタンツ | 関東支社　道路部　副部長 |
| | 高橋　　明 | (株)日本政策投資銀行 | 地域調査部長 |
| | 髙橋 健太郎 | (株)熊谷組 | 土木事業本部　営業部　部長 |
| | 竹澤 正太郎 | 前田建設工業(株) | 土木事業本部　副部長 |
| | 田代　裕一 | パシフィックコンサルタンツ(株) | 社会イノベーション事業本部　交通政策部　都市マネジメント室 |
| | 龍田　昌毅 | 日鉄物産(株) | プロジェクト開発部　担当部長 |
| | 谷山　喜彦 | 日鉄興和不動産(株) | 開発企画本部　担当部長 |
| | 角田　光男 | (一社)共同通信社 | 社友 |
| | 土井　一生 | (株)みずほ銀行 | 社会・産業基盤インダストリーグループ長付参事役 |
| | 飛田　茂美 | (一社)不動産協会 | 前 事務局長代理 |
| | 長澤 光太郎 | (株)三菱総合研究所 | 専務執行役員　シンクタンク部門長 |
| | 永重　雅守 | 前田建設工業(株) | 常務執行役員　土木事業本部　副本部長 |
| | 中嶋 さやか | 五洋建設(株) | ICT 推進室　BIM/CIM グループ　担当課長 |
| | 中矢　昌希 | 中央復建コンサルタンツ(株) | 総合技術本部　社会インフラマネジメントセンター　都市開発プロジェクト　チーフマネージャー |
| | 奈良　照一 | (株)ドーコン | 交通事業本部　交通部長 |
| | 楯館　　学 | 日本シビックコンサルタント(株) | 地下施設技術部　部長代理 |
| | 楯原　圭紘 | パシフィックコンサルタンツ(株) | プロジェクト統括部　ビジネスインキュベーション室 |
| | 南光　　繁 | 日本製鉄(株) | プロジェクト開発部　プロジェクト開発室　上席主幹 |
| | 仁賀木 康之 | 復建エンジニアリング(株) | 事業推進部　部長 |
| | 服部　唯之 | (株)ドーコン | 東京支店　支店長 |
| | 林　　敦 | (株)みずほ銀行 | 執行理事　社会・産業基盤第二部長 |
| | 林　　良嗣 | 中部大学 | 卓越教授 |
| 委　員 | 深澤　淳志 | (一財)日本建設情報総合センター | 理事長 |
| | 藤井　　健 | 首都高速道路(株) | 代表取締役　専務執行役員 |
| | 堀江　弘和 | (公財)名古屋まちづくり公社 | 名古屋都市センター事業部長 |
| | 正岡　和繁 | 日本シビックコンサルタント(株) | 地下施設技術部　グループ長 |
| | 町村　俊彰 | 前田建設工業(株) | 土木事業本部　営業第1部長 |
| | 松尾　直規 | 中部大学 | 名誉教授 |
| | 松崎　成伸 | 戸田建設(株) | 本社土木営業第一部　課長 |
| | 松田　寛志 | 日本工営(株) | 常務執行役員 |
| | 松谷　春敏 | (株)IHI | 顧問 |
| | 松友　　登 | 西松建設(株) | 執行役員　土木事業本部　副本部長 |
| | 松本　　伸 | (株)大林組 | 常務執行役員　土木本部　生産技術本部長 |
| | 丸岡　裕人 | 日鉄防食(株) | 取締役企画管理部長　安全環境・品質統括部長 |
| | 丸山　隆英 | 東亜建設工業(株) | 執行役員　常務 |
| | 水口 倫太郎 | あおみ建設(株) | 経営企画室長 |
| | 水谷　　誠 | (一社)日本建設業連合会 | 常務執行役 |
| | 見附　敬三 | (株)建設技術研究所 | 管理本部　副本部長 |
| | 三輪　恭之 | 森ビル都市企画(株) | 事業企画部　部長補佐 |
| | 村尾　公一 | 東京都市大学 | 特任教授 |
| | 村田　浩隆 | 五洋建設(株) | 横浜営業支店　支店長 |
| | 森山　真稔 | (一社)建設コンサルタンツ協会 | インフラストラクチャー研究所　研究員 |
| | 山﨑　隆司 | (株)JR東日本クロスステーション | 常勤監査役 |
| | 山﨑　智之 | (株)日本政策投資銀行 | 都市開発部　次長 |
| | 吉川　正嗣 | (株)建設技術研究所 | 顧問 |
| | 吉﨑　　収 | (株)大林組 | 執行役員　土木本部　副本部長 |
| | 利穂　吉彦 | 鹿島建設(株) | 常務執行役員　技術研究所長 |
| | 渡邊　恵一 | 東亜建設工業(株) | 土木事業本部　プロジェクト部　担当部長 |

| | 氏　名 | 団体名 | 役　職 |
|---|---|---|---|
| アドバイザー | 浦田　秀樹 | 日本製鉄(株) | プロジェクト開発部　プロジェクト開発室長 |
| | 江守　昌弘 | (株)建設技術研究所 | 常務執行役員　東京本社　副本社長 |
| | 金山　洋一 | 富山大学 | 都市デザイン学部都市・交通デザイン学科　教授 |
| | 木村　敬一 | 日鉄物産(株) | プロジェクト開発部　担当部長 |
| | 栗田　　悟 | (一社)北海道建設業協会 | 副会長 |
| | 酒井　芳一 | (一社)建設コンサルタンツ協会 | インフラストラクチャー研究会　事務局長 |
| | 長南　政宏 | (株)建設技術研究所 | 東京本社都市部　PFI・PPP室　室長 |
| | 長谷川　専 | (株)三菱総合研究所 | 営業本部　インダストリーマネージャー（スマートシティ担当） |
| | 林　　栄明 | 国際航業(株) | 公共コンサルタント事業部　事業管理部　部長 |
| | 吉川　大三 | (株)安藤・間 | 営業本部　顧問 |
| 事務局 | 丸川　裕之 | (一社)日本プロジェクト産業協議会 | 専務理事・事務局長 |
| | 三浦　潔司 | (一社)日本プロジェクト産業協議会 | 常務理事・事業企画部長 |
| | 箱田　泰史 | (一社)日本プロジェクト産業協議会 | 元 事業企画部　部長(現 鹿島建設(株)) |
| | 齋藤　　彰 | (一社)日本プロジェクト産業協議会 | 事業企画部　部長 |
| | 久保田 勝朗 | (一社)日本プロジェクト産業協議会 | 事業企画部　部長 |
| | 中川　雄一 | (一社)日本プロジェクト産業協議会 | 事業企画部　部長 |

国土造りプロジェクト構想９
～安全・快適で豊かな国土造りのために～

【 瀬戸内クルーズネットワーク構想 】
～クルーズ文化の浸透と瀬戸内の地域振興～

---

一般社団法人 日本プロジェクト産業協議会（JAPIC）

発　　行　　2022 年 3 月 9 日
発 行 所　　一般社団法人 日本プロジェクト産業協議会
〒 103-0025
東京都中央区日本橋茅場町 3-2-10 鉄鋼会館 6F
編集・印刷　　株式会社 大應

©Japan Project-Industry Council 2022, Printed in Japan


JAPIC
Japan Project-Industry Council